

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 11 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田 聡一郎		
共創-23	実施事業	美術館建設準備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	文化人権課
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	文化を創造するまちづくりに資する施設となる美術館の設置に向けて準備をするため。
効果	鎌倉ゆかりの美術工芸品等の収集及び保存を図る。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 高田博厚作品を含む美術品保管委託等を行った。 鎌倉生涯学習センターの休館に伴い、掲示していた作品を美術品保管庫へ搬送した。 美術工芸品等収集選定委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となり、作品の収集はできなかった。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	データ区分	02年度(2020年度)当初予算	備考
人口等のデータ	人口	176,308人	人口	176,608人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世帯数	81,763世帯	世帯数	83,058世帯	
	事業の対象者数			事業の対象者数	
運営資源状況	決算値(千円)	2,190	2,485	当初予算(千円)	2,727
	国県支出金			国県支出金	
	地方債			地方債	
	その他			その他	
	一般財源	2,190	2,485	一般財源	2,727
	人員配置数	0.1	0.1	人員配置数	0.1
			会計年度任用職員配置数	0.0	
事業経費運営	人件費(千円)	796	826	人件費(千円)	803
	総事業費(千円)	2,986	3,311	総事業費(千円)	3,530
	市民1人当りの経費(円)	17	19	市民1人当りの経費(円)	20
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)	

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンドで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	1. ある		
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能		
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある		
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある		
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である		
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	2. 事業の方向性は適切であるが、手法は見直す必要があり、あまり貢献できていない		
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない	
			△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない	
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	協働実施済の場合のパートナー	
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小	
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒			事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	美術品保管委託先は、保管に適する民間倉庫が近隣では現在契約している企業のみであるため。	
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする			
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する			
総評(評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、鎌倉市教育文化施設建設基金は教育総務課が所管しているため、「統合に向けた検討は可能」とし、「事業費の削減余地」は「ある」とした。妥当性については、市民等から寄贈された作品の保管・展示を適切に行う必要があることから、「市民ニーズ」は「ある」、「事業の廃止・休止による市民生活への影響」は「小さいがある」とした。有効性については、美術工芸品等収集選定委員会を開催し作品収集をしているものの、(仮称)鎌倉美術館の建設に関し具体的な進捗がなかったため「更なる努力は必要である」とした。			

令和元年度(2019年度)事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・(仮称)鎌倉美術館用地等の選定等、具体的な進捗がない。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品の適切な収集選定を行うため、美術工芸品等収集選定委員会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、作品の収集はできなかった。 ・既に収集されている美術品の保管委託を行い適切な管理をした。 ・(仮称)鎌倉美術館の建設に関する進捗はなかったが、市庁舎内で市民等から寄贈を受けた収蔵作品の展示替えを行い、来庁者に新たな美術品の鑑賞の機会を提供した。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・(仮称)鎌倉美術館の建設が難しい状況となっていることから、収蔵する美術品をいかに市民等へ鑑賞させるかなどの手法を探る必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方								

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	単位	指標の傾向							備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
	目標値								
	実績値								
	達成率								
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方									